

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「GTグローバル インvestment・オープン」は、このたび、第38期の決算を行いました。

当ファンドは内外の株式（DR（預託証書）を含みます）・債券を主要投資対象とし、安定した収益の確保および投資信託財産の着実な成長を図ることを目標に積極的な運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



**GTグローバル
インvestment・オープン**
追加型投信／内外／資産複合



第38期末（2015年8月28日）	
基準価額	6,854円
純資産総額	2,536百万円
第38期	
騰落率	△6.4%
分配金（税込み）合計	0円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記<お問い合わせ先>のホームページにアクセスし、「ファンド一覧」等から運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。

交付運用報告書

第38期

（決算日2015年8月28日）

作成対象期間（2015年3月3日～2015年8月28日）

インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー14階

<お問い合わせ先>

お問い合わせダイヤル：(03)6447-3100

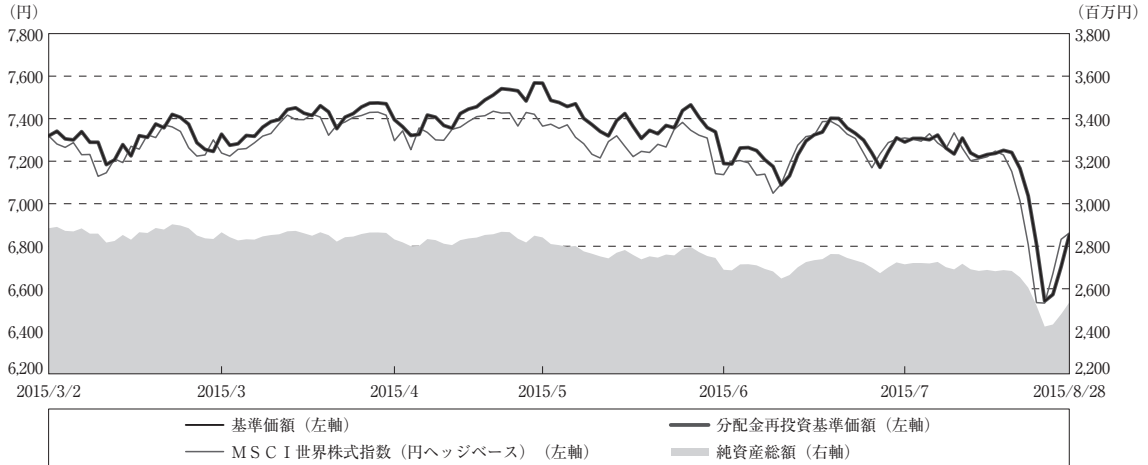
（受付時間：毎営業日の午前9時から午後5時）

ホームページ <http://www.invesco.com.jp/>

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2015年3月3日～2015年8月28日)



期 首：7,319円

期 末：6,854円 (既払分配金 (税込み)：0円)

騰落率：△6.4% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびMSCI世界株式指数 (円ヘッジベース) は、期首 (2015年3月2日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) ベンチマークは、MSCI世界株式指数 (円ヘッジベース) です。ベンチマークの詳細は10ページをご参照ください。

○基準価額の主な変動要因

[上昇要因]

- ・日本を含む世界各国の株式を主要投資対象としていることから、期の前半にかけて日本やフランスなどの株式市場が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。

[下落要因]

- ・日本を含む世界各国の株式を主要投資対象としていることから、期末にかけて投資対象とした多くの国の株式市場が下落したことが、基準価額の下落要因となりました。
- ・個別銘柄分析に基づくボトムアップ・アプローチにより、日本を含む世界各国の株式を投資対象とした結果、APPLE (米国/テクノロジー・ハードウェアおよび機器)、GENERAL ELECTRIC (米国/資本財)、PFIZER (米国/医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス) などの株価が下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

1万口当たりの費用明細

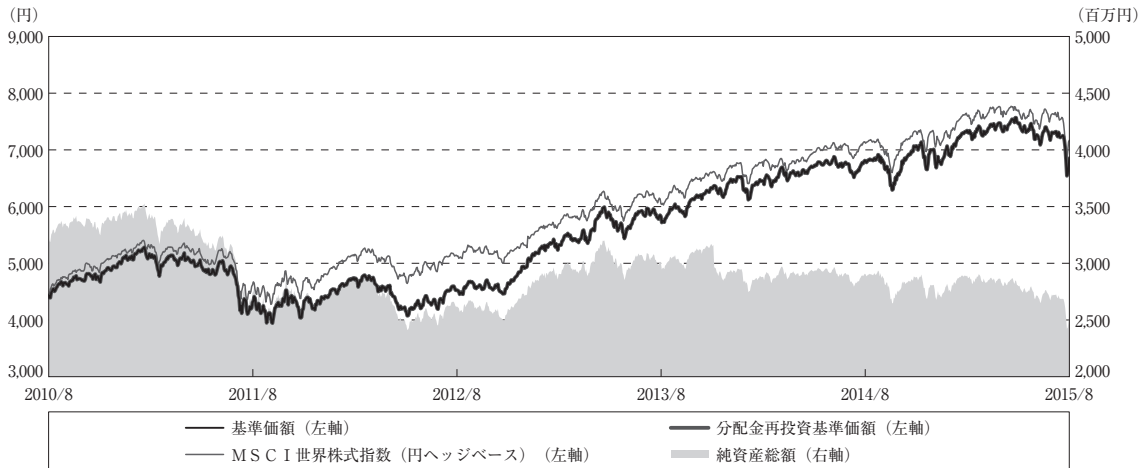
(2015年3月3日～2015年8月28日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	円 75 (36) (35) (4)	% 1.019 (0.492) (0.475) (0.053)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) (投 資 信 託 証 券)	4 (4) (0)	0.051 (0.051) (0.001)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式) (投 資 信 託 証 券)	4 (4) (0)	0.054 (0.054) (0.000)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (そ の 他)	3 (2) (1) (0)	0.039 (0.025) (0.014) (0.000)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、外国有価証券に係る税金および信託事務の処理に要するその他の費用等
合 計	86	1.163	
期中の平均基準価額は、7,353円です。			

- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2010年8月30日～2015年8月28日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびMSCI世界株式指数（円ヘッジベース）は、2010年8月30日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2010年8月30日 決算日	2011年8月29日 決算日	2012年8月28日 決算日	2013年8月28日 決算日	2014年8月28日 決算日	2015年8月28日 決算日
基準価額 (円)	4,434	4,212	4,527	5,718	6,803	6,854
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 5.0	7.5	26.3	19.0	0.7
MSCI世界株式指数 (円ヘッジベース) 騰落率 (%)	—	3.6	11.7	17.8	17.9	0.7
純資産総額 (百万円)	3,221	2,677	2,618	2,945	2,903	2,536

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) ベンチマークは、MSCI世界株式指数（円ヘッジベース）です。ベンチマークの詳細は10ページをご参照ください。

投資環境

(2015年3月3日～2015年8月28日)

TOPIX (東証株価指数) (日本)	+1.6%	S & P 500指数 (米国)	△6.1%
FT100指数 (英国)	△10.0%	DAX指数 (ドイツ)	△9.7%
CAC40指数 (フランス)	△4.9%		
米ドル/円	121円15銭 (前期末119円87銭)	ユーロ/円	136円11銭 (前期末133円82銭)

※株価指数の騰落率は前期末比、米ドル/円およびユーロ/円は当期末の数値です。

<株式市場>

当期の世界の株式市場は、2015年8月中旬までは一定の値幅で上昇と下落を繰り返す推移となりました。①各国の企業業績見通しがおおむね良好な状態を維持したこと、②米国の雇用統計をはじめとするマクロ経済指標がおおむね市場予想を大きく下回る内容となったことなどを背景に、株価は大きく底割れすることはありませんでした。しかし、ギリシャの債務問題や中国の景気減速懸念、米国で9月にも始まると一部で予想されている利上げへの警戒感などが株価の上値を抑え、市場が上昇基調となることはありませんでした。その後8月中旬以降は、それまで不安定な動きを示していた中国株式市場の下落をきっかけに世界的に株価が大きく下落し、結局前期末と比較すると日本を除く主要国の株価は5%から10%下落して期末となりました。

<債券市場>

当期中、米連邦準備理事会 (FRB) は政策金利を据え置きとしました。欧州中央銀行 (ECB) は政策金利を0.05%で据え置きとする一方で2015年3月から量的緩和を開始し、積極的に資産の買い入れを行いました。

米国では、好調な景気指標の発表などを受け2015年3月上旬にかけて金利が上昇する局面もありましたが、①ECBが量的緩和を開始したこと、②3月に開催された米連邦公開市場委員会 (FOMC) で政策金利の見通しが大きく引き上げられたことなどを背景に4月半ばごろまで金利は低下しました。しかし、株式市場や原油などの商品市況が上昇したことや6月上旬にかけて欧州各国の金利が急騰したことなどを受け、4月下旬ごろからは金利上昇となりました。7月以降は、再度金利は低下しました。①7月上旬に行われたギリシャの国民投票で緊縮財政反対派が勝利したことにより、ギリシャ問題の先行き不透明感が高まったこと、②中国景気に対する懸念から中国株式市場が急落し、商品市況も大きく下落したことなどが金利低下を促す要因となりました。

ユーロ参加国では、2015年3月にECBが量的緩和を開始したことなどを背景に4月中旬まで金利低下傾向が続き、ドイツ10年国債利回りは一時0.10%を割り込みました。しかしその後、ユーロ圏の消費者物価指数 (CPI) 前年比伸び率がプラス圏に浮上したことが確認されると極端なデフレ懸念が後退し、市場金利は反転し急速に上昇する展開となりました。7月以降はギリシャ問題に対する懸念が強まったことや中国経済に対する懸念を背景に金利は緩やかに低下しました。

<為替市場>

為替市場では、ユーロ、英ポンドなどが対円で上昇する一方で、オーストラリアドルなどが対円で大幅に下落しました。期末直前の2015年8月半ばまでは堅調に推移していた米ドルは、期末直前に発生した中国株式市場の大幅下落などを背景に外国為替市場において1米ドル116円台まで急落したものの、期末には121円台まで急反発しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2015年3月3日～2015年8月28日)

日本を含む世界各国の株式・債券については、トップダウン・アプローチ、および運用担当チームがもつ定量モデルにより資産配分の決定を行いました。当期については期初から期の終盤近くまで株式の魅力度が相対的に高いと判断し、株式への配分比率をおおむね100%とする戦略をとりました。期の終盤は株式に対するリスクが高まったと判断し、その比率を100%近くから80%近辺まで引き下げました。株式ポートフォリオの構築に当たっては、企業の収益性、成長性、財務健全性、割安度などを総合的に判断し選定した銘柄に分散投資を行いました。外貨建資産の投資に当たっては、運用担当チームがもつ定量モデルに従って、投資環境・ヘッジコストなどを総合的に勘案しながら機動的に為替ヘッジを行いました。当期については期を通じておおむね高位の為替ヘッジ比率を維持しました。

当期の主な買付銘柄は、JPMORGAN CHASE & CO (米国/銀行)、PFIZER (米国/医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス)、CITIGROUP (米国/銀行) などでした。一方、主な売却銘柄は、BERKSHIRE HATHAWAY-B(米国/各種金融)、VODAFONE GROUP-SP(米国/電気通信サービス)、AMERICAN EXPRESS (米国/各種金融) などでした。

なお、当ファンドは当期中の2015年5月29日に、インベスコ・アドバイザーズ・インク (所在地：アメリカ合衆国 ジョージア州アトランタ市) から、インベスコ・アセット・マネジメント・ドイチュエルンドGmbH (所在地：ドイツ フランクフルト) に運用の指図に関する権限の委託先を変更しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2015年3月3日～2015年8月28日)

当期の基準価額騰落率は△6.4%となり、ベンチマークであるMSCI世界株式指数(円ヘッジベース)の騰落率△6.2%を下回る結果となりました。

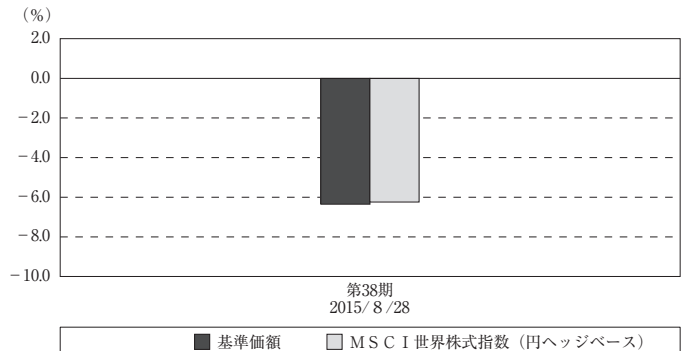
[プラス要因]

- ・個別銘柄選択の積み上げの結果として「生活必需品」「素材」セクターの組み入れをベンチマークと比較して低めにしていたことがプラス要因となりました。

[マイナス要因]

- ・個別銘柄選択の積み上げの結果として「電気通信サービス」セクターの組み入れをベンチマークと比較して低めにしていたこと、「公益事業」セクターの組み入れをベンチマークと比較して高めにしていたことが、マイナス要因となりました。

基準価額とベンチマークの対比 (期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金(税込み)込みです。

(注) ベンチマークは、MSCI世界株式指数(円ヘッジベース)です。ベンチマークの詳細は10ページをご参照ください。

分配金

(2015年3月3日～2015年8月28日)

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向および残存信託期間などを勘案し、当期は見送りとさせていただきます。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万円当たり、税込み)

項 目	第38期
	2015年3月3日 ～2015年8月28日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,093

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

株式運用戦略については、株価水準や利益成長率、財務指標の健全度などの観点から個別銘柄ごとに魅力度を算定し、その魅力度が高い銘柄を中心にポートフォリオを構築する戦略とします。また、ポートフォリオにおける株式組入比率については、運用チームの株価見通しに基づき、株価の下落を予想する際には株式比率をやや引き下げ現金を保有する戦略とします。為替ヘッジ比率については原則対円でフルヘッジとしますが、運用チームの見通しに基づき外貨が対円で上昇すると予想するケースでは、ヘッジ比率をやや引き下げ外貨の上昇を享受することを狙う戦略とします。

お知らせ

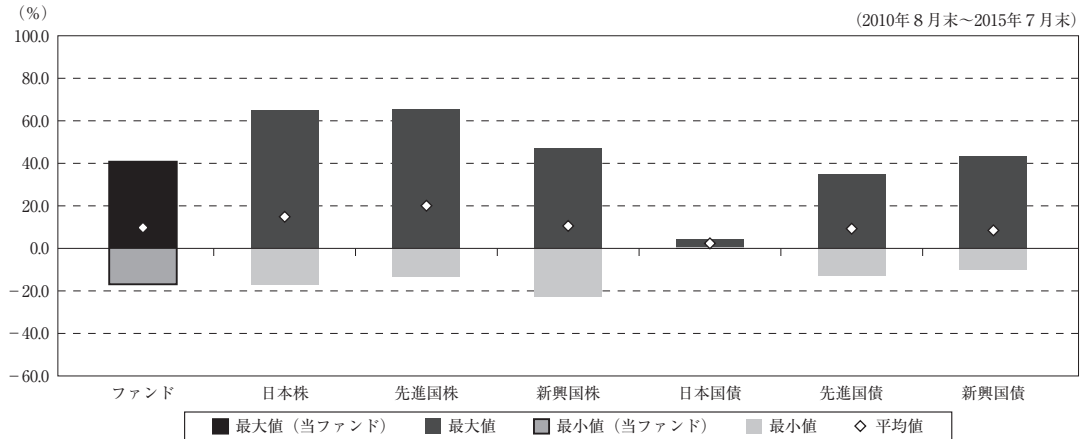
- ・金融商品取引法および投資信託及び投資法人に関する法律等の改正に係る政令・内閣府令、一般社団法人投資信託協会の諸規則等が施行・実施されたことに伴い、新たに定められた「信用リスク集中回避のための投資制限」の規定に対応するため、関連する条項に変更を行いました。
 - ・運用内容の向上、効率化を目的として、運用の指図に関する権限の委託先をインベスコ・アドバイザーズ・インクからインベスコ・アセット・マネジメント・ドイチェランドGmbHに変更するとともに、運用方法に関する記載の一部に変更を行いました。
 - ・信託期間を無期限から有期限とするため、関連する条項に変更を行いました。
- (以上すべて2015年5月29日)

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2025年8月28日まで
運用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・内外の株式（DR（預託証書）を含みます）・債券を主要投資対象とし、安定した収益の確保および投資信託財産の着実な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。 ・外貨建資産の投資に当たっては、投資環境・ヘッジコストなどを総合的に勘案しながら機動的に為替ヘッジを行います。 ・MSCI世界株式指数（円ヘッジベース）をベンチマークとします。
主要投資対象	内外の株式（DR（預託証書）を含みます）・債券を主要投資対象とします。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・日本を含む世界各国の株式・債券の中から、企業の収益性、成長性、安定性、割安度などを総合的に勘案して選定した銘柄に分散投資を行います。 ・資産配分、為替ヘッジ比率の決定についてはトップダウン・アプローチ、株式ポートフォリオの運用についてはボトムアップ・アプローチ、債券ポートフォリオの運用についてはトップダウン・アプローチとボトムアップ・アプローチを併用したアクティブ運用を行います。
分配方針	原則として年2回の毎決算時（2・8月の各28日、該当日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わないことがあります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	9.8	14.9	20.1	10.6	2.4	9.3	8.5
最大値	40.8	65.0	65.7	47.4	4.5	34.9	43.7
最小値	-16.8	-17.0	-13.6	-22.8	0.4	-12.7	-10.1

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2010年8月から2015年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P10の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2015年8月28日現在)

○組入上位10銘柄

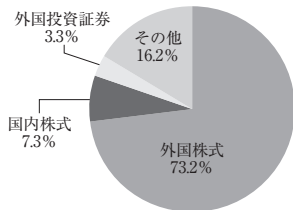
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率 %
1	APPLE	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	米ドル	アメリカ	3.2
2	GENERAL ELECTRIC	資本財	米ドル	アメリカ	2.2
3	PFIZER	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	アメリカ	2.1
4	JPMORGAN CHASE & CO	銀行	米ドル	アメリカ	2.1
5	日本電信電話	情報・通信業	円	日本	2.0
6	CITIGROUP	銀行	米ドル	アメリカ	2.0
7	MACQUARIE GROUP	各種金融	オーストラリアドル	オーストラリア	1.9
8	INTEL	半導体・半導体製造装置	米ドル	アメリカ	1.9
9	YANGZHIJIANG SHIPBUILDING HOLDINGS	資本財	シンガポールドル	シンガポール	1.8
10	東京瓦斯	電気・ガス業	円	日本	1.8
組入銘柄数			83銘柄		

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

○資産別配分

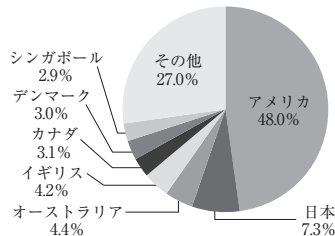


(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

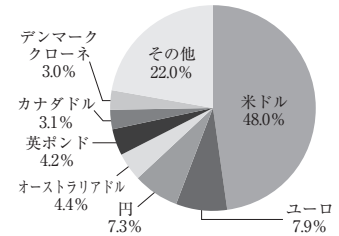
(注) 国別配分につきましては発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

○国別配分



○通貨別配分



純資産等

項目	第38期末
	2015年8月28日
純資産総額	2,536,160,280円
受益権総口数	3,700,071,836口
1万円当たり基準価額	6,854円

* 期中における追加設定元本額は1,168,173円、同解約元本額は242,401,937円です。

＜当ファンドのベンチマークについて＞

ベンチマークは、MSCI Inc.が公表するMSCI世界株式指数（円ヘッジベース）をもとに設定日を10,000として、当社が独自に指数化しています。MSCI世界株式指数は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、同指数に関する著作権、その他知的財産権はMSCI Inc.に帰属しています。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

○TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

TOPIXは、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄の株価を対象として算出した指数です。TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

○MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。なお、円ベース指数については、委託会社がMSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM/ロイター値）を乗じて算出しています。

○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数で、著作権、商標権、知的財産権、その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガンGBI – EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

JPモルガンGBI – EMグローバル・ダイバーシファイドは、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。円ベース指数については、委託会社がJPモルガンGBI – EMグローバル・ダイバーシファイド（米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM/ロイター値）を乗じて算出しています。

本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2015, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.